



1月 食育だより

いばらきけんりつきょうわとくべつしえんがっこう
茨城県立協和特別支援学校

2026.1

あ
明けましておめでとうございます。今年も安全でおいしい給食作りに努めます。よろしくお願ひいたします。
ことし あんぜん きゅうしょくづく つと
いよいよ3学期が始まりました。風邪やインフルエンザも流行していますので、体調管理により一層気を付けて、
いにちいちにち たいせつ す
いちにちいちにち たいせつ す
一日一日を大切に過ごしましょう。



1/24~1/30は
「全国学校給食週間」です

日本の学校給食のあゆみ

学校給食の始まり

明治22(1889)年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校は、大督寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。

大正12年(1923)年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食糧不足で中止せざるを得なくなってしまいました。

戦後、子どもたちの栄養状態を心配する声が高まり、昭和21(1946)年12月24日にLARA(アジア救援公認団体)から給食用物資の贈贈を受け、翌1月に学校給食が再開されました。昭和29(1954)年には、「学校給食法」が成立し、学校給食が教育活動として位置づけられるようになりました。主食はパンを中心でしたが、昭和51年に米飯(ごはん)が導入されると、カレーライスなどが登場し、献立内容が充実してきました。

